

教校部「安心論題」濱畑僚一

教校部の「安心論題」では、学院部とは少し趣を変えて、「知る」から「考える」に取り組んでみたいと思います。

そもそも、「安心論題」とは、法然聖人、親鸞聖人の言葉を、少なくとも蓮如上人の言葉まで見渡した時に、統一した論理が見出だせる事を考えた学問とも言えます。また、祖師がたの言葉について、明らかに間違った読み方を「異安心」と一応定義すると、「安心論題」は「異安心」に対して、「安心」という統一した解答を出そうとしている事がわかります。「異安心」を間違った解答だと否定しようとするれば、正しい解答を決めなければならないのは当然です。はたして、正しい解答を決める事が出来るのか。祖師がたの言葉を、各論題の枠組で理解する事が可能なのか、など問題が出てきます。

「安心論題」の動機は、祖師がたの言葉を厳密に理解しようという事であったはずですが。その際、実際に祖師がたの言葉を生きようとした先輩がたの努力の結晶である論題は、祖師理解の枠組として私達を助けてくれるはずです。ところで私は、和上から「安心論題は、武道などの「型」のようなものである。「型」がなければ戦えないが、「型」では戦えない」と聞きました。

取り組むべき課題は多いですが「そこから出て、そこに帰ってこれる安心論題」を目標に、論題の枠組で祖師がたの言葉を厳密に理解する努力を、「安心論題」の講義として続けてみたいと思います。参考文献は、御聖教しかありませんが、勸学寮編集『新編安心論題綱要』は基準となります。また、梯實圓和上『教行信証の宗教構造』等々は、学習の強い味方になってくださるはずです。

本年度は、勸学寮テキストの順番で、「念仏為本」から、取り組んでみたいと思います。

なお、現役学生による発表を行い、講師がそれについて総括をすることもあります。